

コース名		科目名			対象学年		
個体の反応 病因と病態		生体と薬物			2		
開講学期		科目責任者		副責任者			
2 学期		岡本 安雄		坪井 一人			
目的							
正しい薬物療法を行うために、薬理作用の基本、薬物動態、薬物相互作用などを理解することを目的とする。							
授業到達目標							
<p>本科目は、コンピテンスⅢ（医学と関連領域の知識）へとつながる科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体（あるいは生体群）の薬物・毒物反応性について、用量反応曲線を理解している。 2. 薬物の受容体結合・薬理作用の関連性及び作動薬・拮抗薬について理解している。 3. 薬物の有害作用、薬物間相互作用について概要を理解している。 4. 年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮した薬剤投与の注意点について理解している。 5. 薬物動態的相互作用について理解している。 6. オピオイド鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している。 7. 薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している。 8. 分子標的薬・バイオ医薬の薬理作用と有害事象の概要を理解している。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	9/ 5	木	4	講義	岡本安	薬理	薬の効くしくみ①
2	9/ 5	木	5	講義	岡本安	薬理	薬の効くしくみ②
3	9/ 5	木	6	講義	岡本安	薬理	薬物の投与経路
4	9/12	木	4	講義	岡本安	薬理	薬物の吸収・分布
5	9/12	木	5	講義	岡本安	薬理	薬物の代謝・排泄
6	9/12	木	6	講義	岡本安	薬理	薬物相互作用
7~9	9/19	木	4~6	実習	岡本安・坪井一 竹之内康・北風	薬理	熱刺激法・圧刺激法における鎮痛薬の作用
10~12	9/25	水	4~6	実習	岡本安・坪井一 竹之内康・北風	薬理	二重盲検法（カフェインの作業能率に及ぼす影響）
13	10/ 4	金	4	講義	岡本安・坪井一 竹之内康・北風	薬理	実習のまとめ（実習の内容についてパワーポイントにより発表する。（アクティブラーニング、TBL））
14	10/ 4	金	5	講義	岡本安	薬理	薬効の個人差、薬物治療の有益性・安全性、様々な有害反応、薬物の反復投与における影響
15	10/ 4	金	6	講義	岡本安	薬理	アドレナリン作動薬
16	10/ 7	月	4	講義	岡本安	薬理	抗アドレナリン薬
17	10/ 7	月	5	講義	岡本安	薬理	コリン作動薬・抗コリン薬
18	10/ 7	月	6	講義	岡本安	薬理	神経筋接合部遮断薬（末梢性筋弛緩薬）
19	10/11	金	4	講義	岡本安	薬理	麻薬性鎮痛薬
20	10/11	金	5	講義	岡本安	薬理	抗悪性腫瘍薬
21	10/11	金	6	講義	岡本安	薬理	分子標的薬
22	10/16	水	4	講義	岡本安	薬理	抗菌薬①
23	10/16	水	5	講義	岡本安	薬理	抗菌薬②
24	10/16	水	6	講義	岡本安	薬理	抗ウイルス薬・抗真菌薬
	11/ 2	土	2・3	講義末 試験			講義末試験

評価方法
<p>[講義末試験]85%</p> <p>[レポート]10% (実習の出席およびレポート提出は必須。)</p> <p>[プレゼンテーション]5%</p> <p>[評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、論文・レポート、プレゼンテーション評価、実習態度評価</p>
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて
<p>1. レポートは、教員の指示に従って作成すること。レポートに生成 AI を使用する場合は、「川崎医科大学の生成 AI 取扱い指針」に従い、使用した生成 AI の種類、引用箇所、prompt 内容を提示すること。</p> <p>2. 生成 AI の内容には虚偽が含まれている可能性があるため、必ず自ら根拠や裏付けを確認すること。</p> <p>3. 課したレポートは、原則、コメントをつけて返却する。</p> <p>試験：講義末試験の模範解答は掲示する。</p> <p>実習のまとめ：実習毎に全体で質疑応答を行い、最後にプレゼンテーションの内容などについて担当教員がコメントする。</p> <p>実習レポート：提出された実習レポートにコメントをつけて講義末試験までに返却する。</p>
教科書
<p>特に教科書は指定しないので、自分にあったものを選んでください (薬の基本とはたらきがわかる薬理学：羊土社、イラストレイテッド薬理学：丸善出版、患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門：九州大学出版会、NEW 薬理学：南江堂、薬がみえる vol. 1～4：メディックメディア、ベッドサイドの薬理学：丸善出版、はじめの一步のイラスト薬理学：羊土社、ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学：丸善出版、エース薬理学：南山堂、新薬理学：日本医事新報社、ラング・デール薬理学：丸善出版など)。配布資料あり (Sindbad システムからダウンロード)。実習は配布する薬理学実習書に従って行う。</p>
参考書
<p>(特になし)</p>
準備学習 (予習・復習等)
<p>予習：講義の前に、該当する範囲の教科書を読んでおく (30 分程)。</p> <p>復習：過去の試験問題により各講義内容の理解度を適宜チェックし、不明な点については教科書を用いて自主的に追加学習する (30 分程)。</p>
講義についての注意事項
<p>配布資料を中心にすすめる講義に出席し、その内容を理解する。講義の終了後、不明な点は教員に対して積極的に質問する。</p>
昨年度からの変更点・改善項目
<p>「薬物治療」から 3 コマ移動。総コマ数は同じ。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について
<p>1 年次に学修する「人体の構造と機能 I・II コース」、「個体の構成と機能」履修後に学ぶ。この後に学ぶ「薬物治療」理解のための基礎医学である。</p>
ナンバリング
<p>BPBP221</p>